

令和5年度学校評価報告書

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 主体的に学ぶ力の育成 (2) 他者と共に生きる力の育成 (3) 未来を切り拓く力の育成 (4) 地域に根ざした教育の実践 (5) スクール・ミッションを実現する組織運営 (6) 教職員の資質向上と健康管理

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校全般領域	・本校Webページの内容を全て最新のものに差し替え、教育活動の情報発信について、随時更新するとともに、報道機関等を活用した発信を積極的に行った。 ・業務の見直しを進めた結果、超勤者数が昨年度から激減し、改善が見られている。	・ホームページを活用した情報の蓄積が素晴らしい。今後は高校の魅力を地域に発信するため、ハッシュタグを付けてSNSで発信することも検討してはどうか。ただしSNSは負の拡散性もあるので、注意が必要である。
改善方策	これまでの報道機関への情報提供に加え、町の広報である「広報つべつ」も有効的に活用し、津別町内に教育活動を伝えていく。	
学習指導領域	・学び直しの取組による学力保障、ICTを活用した授業実施、海外研修報告会やつべつ学発表会での中高連携の取組、地域連携協力校の美幌高校との交流、シラバスに沿った評価改善に取り組んだ。	・道東テレビによる情報発信や北大HALL Cとの連携は他校には真似できない強みがある。 ・町の高校対策予算が大きな役割を果たしており、今後も継続していく必要がある。
改善方策	つべつ学での地学協働の成果を、今後は各教科の活動にも波及させていくことで、より地域と密接した学習活動を展開させていきたい。	
生徒指導領域	・いじめ防止対策の改訂やフリートークによる教育相談の充実、校長による全員面談、ボランティア活動が活発に展開された。 ・生徒会が女子生徒中心で、男子生徒の自主性参加を促すことが今後の課題である。	・町で生徒と会ったら挨拶をしてくれる。素直でのびのびと楽しそうにしている。 ・学校単位のボランティア活動だけでなく、町のボランティア活動にも積極的に関わっている。
改善方策	「生徒自らが校則を考える機会」を設けるなどして、ネットリテラシーの高揚を図ったり、生徒会活動の自主的参加を促す仕掛けを講じていきたい。	
進路指導領域	・「つべつ学」と進路につながりを持たせて広がりを持たせていくことが課題。北大公共政策大学院との通年による広義の高大連携だけでなく、北見工大への視察や大学説明会など狭義の高大連携も実施している。	・就職後や進学後のフォローまでしっかり行っている。 ・津別中から地域外の高校に進学した後と、津別高校に進学した後の違いを比較検討できないか。
改善方策	・高校生は次世代の地域を担う人材であり、「つべつ学」などの学びを通して、高校生の段階から地域とのつながりを強くしていく。	
公表方法	学校ホームページへの掲載	